

## Ⅱ 暮らしの向上

### 1 健康づくりの推進

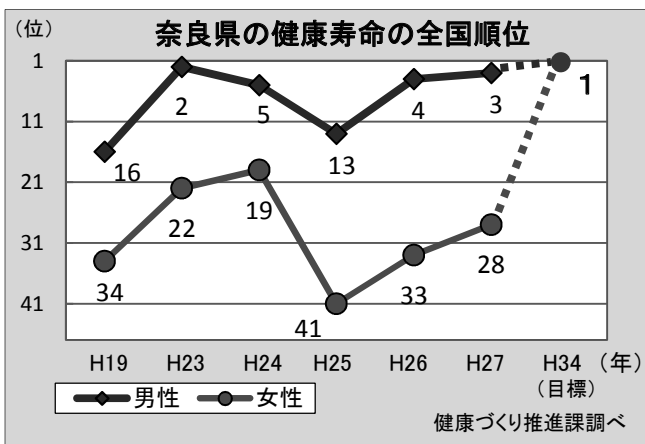
主担当部局(長)名  
健康福祉部長 土井 敏多

#### 目指す姿

県民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らしながら、要介護となる人や若くして亡くなる人を減らし、健康寿命の延長が図られる健康長寿県を目指します。

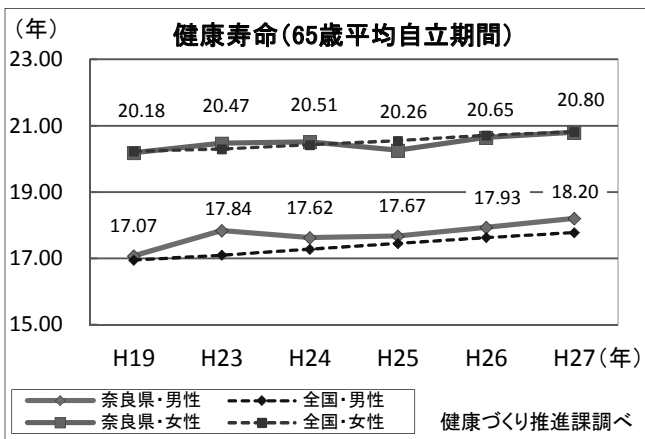
関係部局(長)名:医療政策部長 林 修一郎、くらし創造部長 梶田 斉志、教育長 吉田 育弘

### 1. 政策目標達成に向けた進捗状況

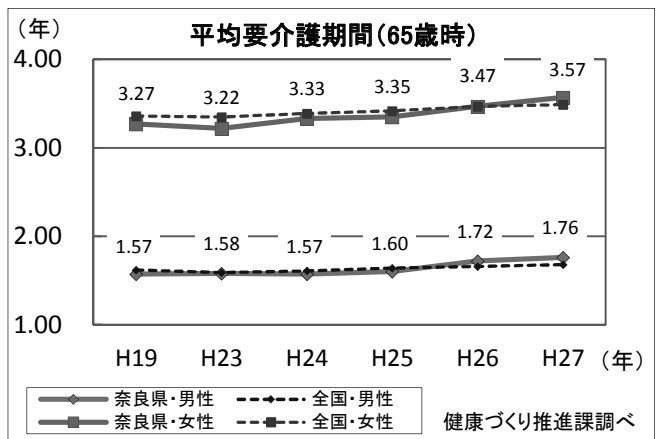


目標	平成34年度までに、県民の健康寿命(65歳平均自立期間)を男女とも日本一にします。(H25年男性:13位、女性41位)
取組	健康寿命の延長に寄与する健康行動につながるよう、減塩教室、禁煙支援リーフレットの普及、健康ステーションの運営、市町村と協働したがん検診受診率向上等の取組を行いました。
成果	平成27年の健康寿命の全国順位は、男性3位、女性28位で、前年と比べ上昇しました。

### 2. 現状分析

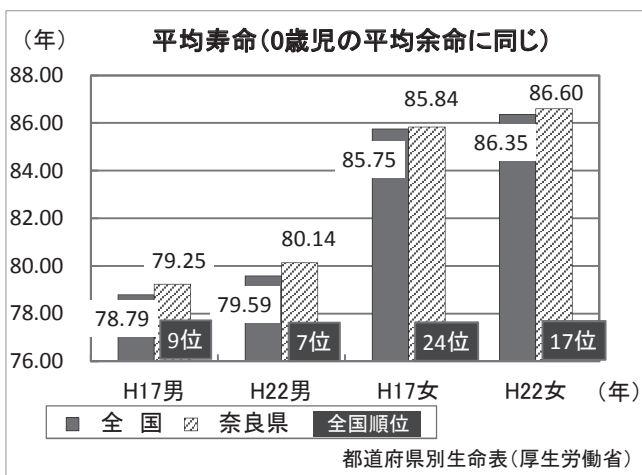
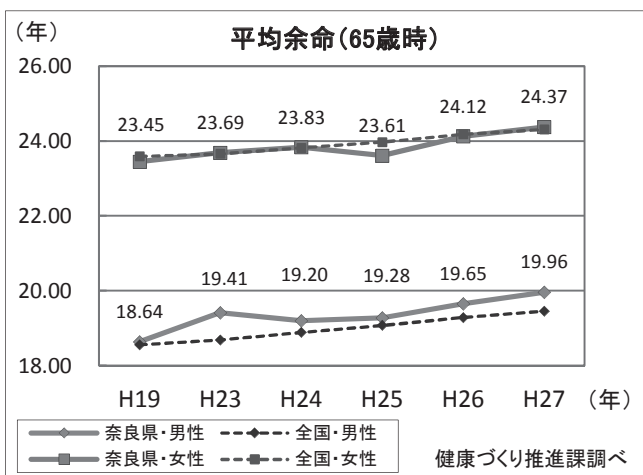


平成27年の奈良県の健康寿命(65歳平均自立期間)は、男性が18.20年、女性が20.80年となっています。全国平均と比較すると、男性は長く、女性は同程度です。



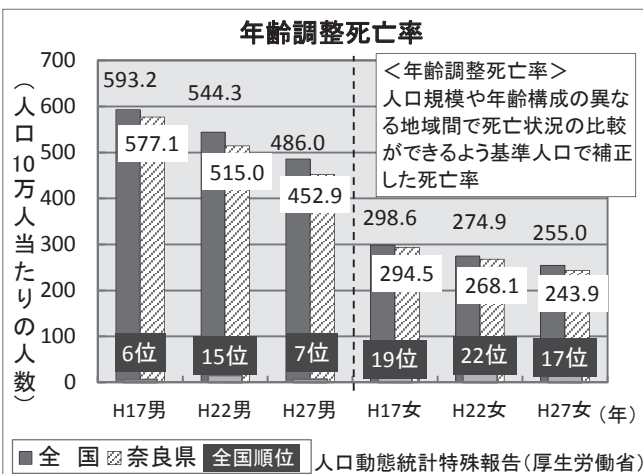
平成27年の奈良県の平均要介護期間(65歳時)は、男性が1.76年、女性が3.57年となっています。全国平均と比較すると、男女ともに長くなっています。

## 2. 現状分析



平成27年の奈良県の平均余命(65歳時)は、男性が19.96年、女性が24.37年となっています。全国平均と比較すると、男性は長く、女性は同程度です。

平成22年の平均寿命は、男女とも全国平均以上です。



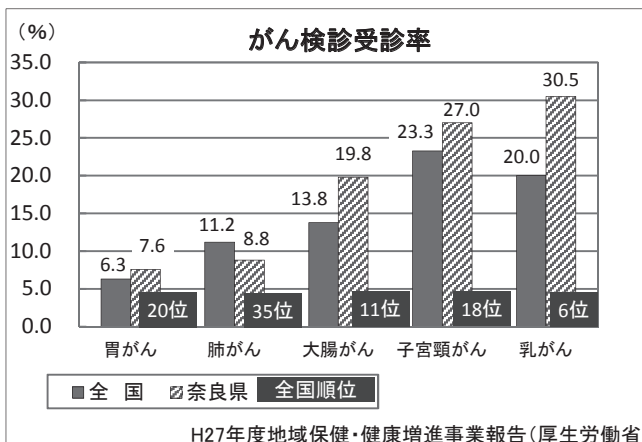
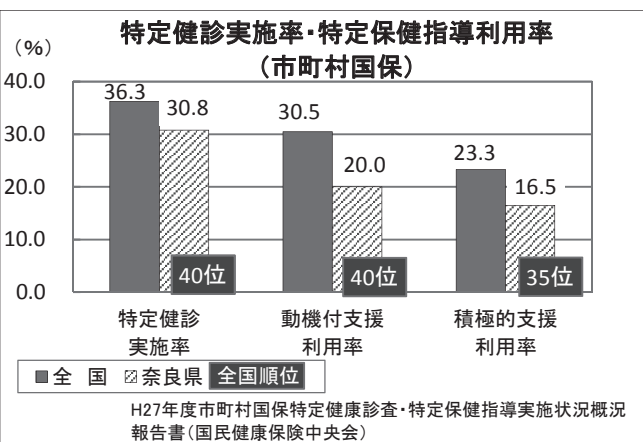
年齢階級別死因

死因順位	1位	2位	3位	4位	5位
20~24歳	自	不	悪		
25~29歳		悪	不	心	脳
30~34歳					
35~39歳				不	
40~44歳					
45~49歳		自	心	脳	不
50~54歳					肝
55~59歳					
60~64歳		悪			
65~69歳			脳		自
70~74歳		心		肺	不
75~79歳					
80~84歳			肺	脳	老
85~89歳					
90~94歳	心	悪	老	肺	脳
95~99歳		老	心	肺	脳
100歳以上					悪

H27年人口動態調査(厚生労働省)

年齢調整死亡率は、男女とも平成17年より平成27年にかけて低減しました。平成27年の男性の全国順位は7位と上位です。

平成27年の全国の年齢階級別死因は、自殺が20~39歳の1位及び40~49歳の2位です。悪性新生物は40~89歳の1位です。



平成27年度の市町村国保の特定健診実施率、動機付支援利用率、積極的支援利用率は、いずれも全国平均を下まわり、低調です。

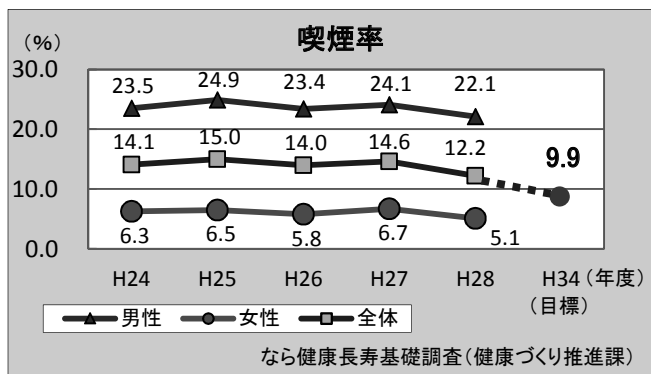
平成27年度に市町村が実施した各種がん検診の受診率は、肺がん検診を除き、全国平均を上回っており、特に、乳がん検診の受診率が全国6位と上位です。

### 3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 健康寿命日本一を達成するため、健康的な生活習慣の普及を進めます。

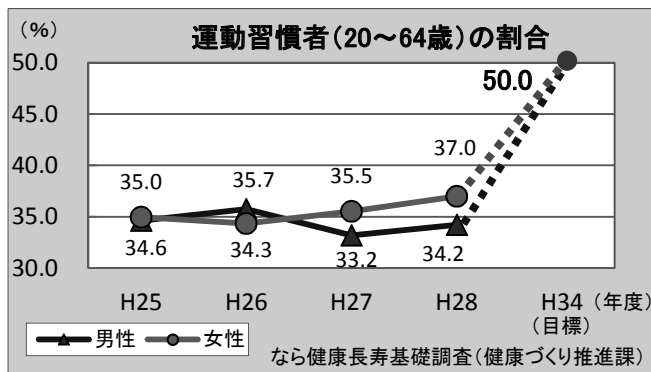
主担当課(長)名 健康づくり推進課長 村田 理

戦略目標	①平成34年度までに、成人県民の喫煙率を9.9%に減少させます。(H23年:14.2%) ②平成34年度までに、食塩摂取量を8gに減少させ、野菜摂取量を350gに増加させます。(H23年:男性11.6g、女性10.1g(食塩) 295g(野菜)) ③平成34年度までに、運動習慣者の割合を50%以上にします。(H23年度:35%)
------	---



**取組** 行動変容につながるよう禁煙行動を促す要因を分析して作成した禁煙支援リーフレットの活用、COPD(慢性閉塞性肺疾患)対策予防講演会の開催等に取り組みました。(①)

**成果** 禁煙支援リーフレットを18市町村(約6,000枚)、病院・薬局・歯科診療所計196機関(約16,000枚)に配布して活用しました。また、COPD(慢性閉塞性肺疾患)対策予防講演会に105人が参加しました。これらの取組により、喫煙率は、全国的に低い水準の12%程度で推移しています。



**取組** 健康ステーション(檀原・王寺)を拠点とし、活動量計を使った健康づくりの推進を行いました。(③)

**成果** 平成29年3月末までの県営健康ステーションの延べ来場者数は、127,802人(檀原)、42,834人(王寺)、活動量計2週間体験者数は、2,165人(檀原)、1,550人(王寺)となっており、県営健康ステーションの運営を通して、運動習慣の啓発に努めたこと等により、平成28年度の運動習慣者の割合は、男女とも前年度より上昇しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
<b>たばこ対策の推進(①)</b>				
肺年齢測定事業実施市町村数(市町村)	—	3	4	健康づくり推進課
<b>減塩対策・野菜摂取の推進(②)</b>				
食育推進計画策定市町村数(市町村)[累計]	26	29	32	健康づくり推進課
<b>運動普及の推進(③)</b>				
健康ステーション設置数(カ所)[累計]	2	2	4	健康づくり推進課
健康寿命の延長に関係する健康指標の市町村別把握と評価の実施(①,②,③)				
なら健康長寿基礎調査有効回答数(件)	5,791	6,272	5,886	健康づくり推進課

#### これまでの成果

- ・禁煙支援アドバイザー研修会には104人の薬剤師が参加し、禁煙スタートアップ講習会には25人が参加しました。また、禁煙支援協力薬局へ登録証とステッカーを配付し、55施設が登録しました。(①)
- ・保健所が市町村(天理市・葛城市・斑鳩町・川西町・下市町)と連携・協働して、子育て世代を対象に親子減塩教室を5回開催し、計238人が参加しました。(②)
- ・市町村営健康ステーションの設置促進の取組により、県内で初めて天理市と大和高田市に健康ステーションが設置され、天理市では2,083人(243日間)、大和高田市では1,383人(114日間)の来場者がありました。(③)

戦略2 特定健診受診や介護予防等に取り組む人を増やし、要介護状態になる人を減らします。

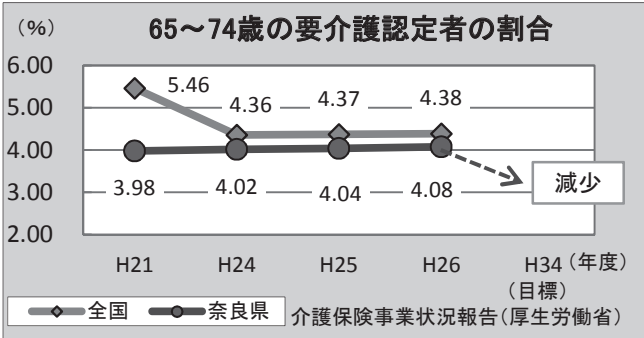
主担当課(長)名 健康づくり推進課長 村田 理

**戦略目標**

①平成29年度までに、特定健診受診率(国保)及び特定保健指導利用率(国保)を60%以上にします。(H23年度(国保)健診:25.1% 保健指導:14.2%)

②平成34年度までに、65歳から74歳の要介護認定者の割合を減少させます。(H23年9月末:4.11%)

③平成34年度までに、20歳以上で歯科医師による定期的なチェック(1年に1回)を受けている人の割合を男女とも50%以上にします。(H23年度:男性33.0%、女性39.6%)

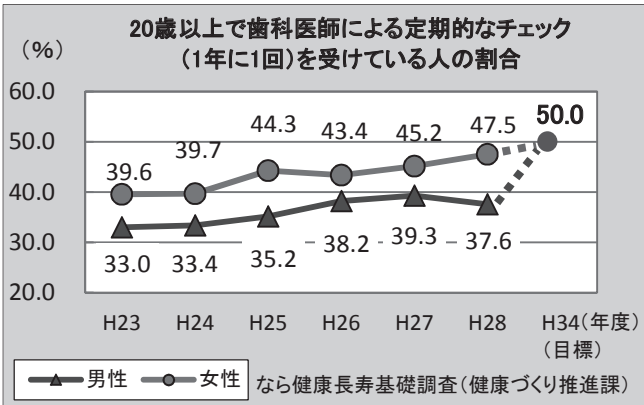


**取組**

地域づくりによる介護予防を推進し、自宅から容易に通える場所で体操等を行う「住民運営の通いの場」づくりに取り組みました。(②)

**成果**

平成26年度の65歳から74歳の要介護認定者の割合は4.08%と、前年度と同程度の割合を維持しました。



**取組**

なら歯と口腔の健康づくり計画に基づき、各ライフステージに応じた歯科口腔保健施策に取り組みました。(③)

**成果**

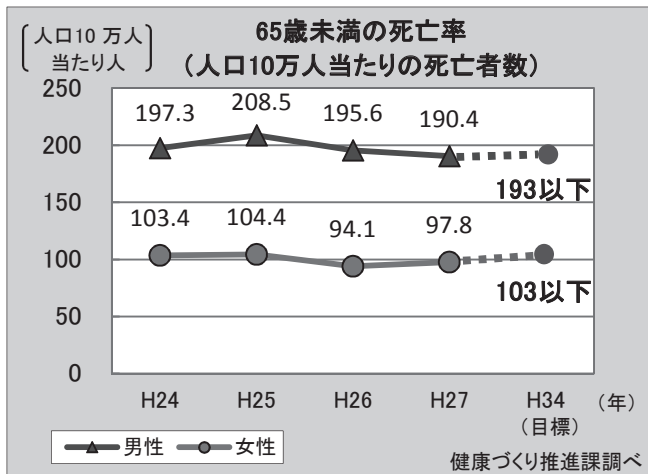
平成28年度の20歳以上で歯科医師による定期的なチェック(1年に1回)を受けている人の割合は、女性は前年度と比べて2.3ポイント(45.2%→47.5%)増加しましたが、男性は前年度と比べて1.7ポイント(39.3%→37.6%)減少しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
特定健診受診及び特定保健指導利用の推進(①)				
特定健診実施率(%) [市町村国保]	29.5	30.8	(集計中)	健康づくり推進課
特定保健指導利用率(%) [市町村国保]	14.4	19.2	(集計中)	健康づくり推進課
介護予防の推進(②)				
「地域づくりによる介護予防(住民運営通いの場づくり)」実施市町村数(市町村)	—	3	18	地域包括ケア推進室
県・後期高齢者医療広域連合の共同実施による高齢者の健康づくりの推進(②,③)				
地域巡回指導・普及啓発事業の実施回数(回)	99	119	165	保険指導課

これまでの成果

- ・特定健診実施率・特定保健指導利用率の向上に向け、市町村、国保連合会と連携して、市町村の取組の好事例集を作成し、市町村情報交換会やホームページ等において周知を図りました。(①)
- ・県のモデル事業として、3市3町1村(五條市・御所市・宇陀市・安堵町・高取町・下市町・山添村)が地域づくりによる介護予防に取り組み、住民が主体的に運営する「通いの場」が立ち上がりました。(②)
- ・保健所が各市町村単位で個別に歯科口腔保健の推進に関する現状、取組、課題等に関する検討を行い、市町村における歯科口腔保健施策の内容充実を図りました。(③)

戦略目標	①平成34年度までに、65歳未満の死亡率を男性193人、女性103人(人口10万人当たり人)以下に減らします。(H23年:男性215人、女性115人(人口10万人当たり人)) ②平成29年度までに、がん検診受診率50%を目指します。(H22年度:胃がん29.3% 肺がん20.2% 大腸がん24.7% 子宮がん35.7% 乳がん35.7%)
------	---



取組	がんは65歳未満の死因として最も多く、早期発見・早期治療につながるがん検診の受診率を高めるため、平成28年度に18市町村に対し、個別受診勧奨・未受診者再勧奨の取組を支援しました。(①、②)
成果	・平成28年度に支援を実施した18市町村のうち、がん検診の受診者数が最も増加した市町村では、平成27年度に比べて10.1倍に増加しました。 ・平成27年の65歳未満の死亡率は、男性が190.4人、女性が97.8人と、男女とも目標(H34年度:男性193人、女性103人)を達成しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
自殺予防啓発の推進と市町村相談機関等の人材育成(①)				
自殺予防に係る人材養成研修受講者数(人)	37	122	167	保健予防課
行政、保険者、企業等の連携によるがん検診の推進(②)				
市町村が実施するがん検診受診率(%) [胃がん]	6.8	7.6 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [肺がん]	7.7	8.8 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [大腸がん]	18.9	19.8 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [子宮頸がん]	27.6	27.0 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [乳がん]	29.8	30.5 (集計中)		健康づくり推進課

これまでの成果

- ・自殺は若年層の死因順位の第1位となっていることから、関係機関・団体等の協力を得て、ゲートキーパー(悩んでいる人に気づき、適切な対応を図ることができる人)の養成講座等を開催し、市町村職員、消防士等167人が受講しました。(①)
- ・「がん検診を受けよう!」奈良県民会議総会及び講演会を開催し、約420人が参加しました。また、啓発活動を同時に実施し、会員90人が参加、啓発グッズを1,500セット配布しました。(②)
- ・県内百貨店において、がんとがん検診に関する展示を行い、約400人が来場しました。(②)

#### 4. 平成30年度に向けた課題の明確化

##### ＜政策目標達成に向けた進捗状況＞

平成27年の健康寿命の全国順位は、男性3位、女性28位で、前年と比べ上昇しました。

##### ＜戦略目標達成に向けた進捗状況＞

・平成29年3月末までの県営健康ステーションの延べ来場者数は、127,802人(橿原)、42,834人(王寺)、活動量計2週間体験者数は、2,165人(橿原)、1,550人(王寺)となっており、県営健康ステーションの運営を通して、運動習慣の啓発に努めたこと等により、平成28年度の運動習慣者の割合は、男女とも前年度より上昇しました。

・平成26年度の65歳から74歳の要介護認定者の割合は4.08%と、前年度と同程度の割合を維持しました。

・平成27年の65歳未満の死亡率は、男性が190.4人、女性が97.8人と、男女とも目標(H34年度:男性193人、女性103人)を達成しました。

##### ＜奈良県の持っている強み＞

1 平成25年における喫煙率は男性が28.2%で、低い方から全国1位、女性が7.2%で4位と上位

2 橿原と王寺に設置した健康ステーションの1日平均入場者数が、それぞれ116人、68人と好調(H29年3月末時点)

3 市町村の実施するがん検診の受診率は、乳がん全国6位、大腸がん11位、子宮頸がん18位(H27年度)等上位

4 平成27年の人口10万人当たりの自殺死者数は15.7人で、低い方から全国3位と上位

5 定期的に歯科検診を受診している人の割合が増加傾向(男性33.0%、女性39.6%(H23年度)→男性37.6%、女性47.5%(H28年度))

##### ＜奈良県の抱えている弱み＞

6 平成24年における食塩摂取量は男性が10.8g、女性が9.3gで目標の8gより多く摂取

7 平成24年における野菜摂取量は、男性が266gで多い方から全国40位、女性が242gで全国46位と下位

8 市町村国保の実施する特定健診実施率は、全国40位(H27年度)と下位

9 全国より高い高齢化率が継続(本県29.6%、全国27.3%(H28年))

##### ＜奈良県への追い風＞

a 2020年東京オリンピックの影響もあり、駅や病院等の公共的な空間での全面禁煙や飲食店等での分煙が進展

b ウォーキングやマラソン等健康づくりが全国的にブーム

c 計測した数値を記録及び転送できる活動量計等の普及が進展

d 「タニタ食堂」等、減塩低カロリー健康食への関心の高まり

e NDB(レシピ情報・特定健診等情報データベース)、KDB(国保データベース)等、医療及び健診データベースの整備が進展

##### ＜奈良県への向かい風＞

f 自殺者数は減少傾向にあるものの、全国で年間23,000人を超える高水準

g 肺炎死亡が増加しており、死因別統計で平成23年に脳血管疾患を抜いて、がん、心臓病に次ぐ第3位

h 高齢化が進展しており、平成47(2035)年に3人に1人が65歳以上の高齢者になると予測

i 高齢化の進展に伴い要介護者数が増加

j 少子化及び高齢化の進展に伴い医療、介護を支える人材が不足

k 高齢化の進展に伴い認知症患者数が増加

##### ＜強みで追い風を活かす課題＞

[重要課題]たばこ対策の推進(1,a)

[重要課題]運動の推進(2,b,c)

[重要課題]がん検診の推進(3,e)

##### ＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞

[重要課題]減塩・野菜摂取(食育)の推進(6,7,d)

・特定健診の推進(8,e)

##### ＜強みで向かい風を克服する課題＞

・自殺対策の推進(4,f)

・歯科口腔保健の推進(5,g,i)

##### ＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞

・高齢者の健康づくりの推進(9,h,i)

・地域包括ケアの推進(9,i,j)

・認知症対策の推進(9,k)

## 5. 平成27年度の評価を踏まえ、平成29年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
減塩・野菜摂取(食育)の推進(戦略1)	市町村毎の課題に応じた取組を支援するため、市町村毎の食塩摂取量、野菜摂取量等の実態調査を実施することとしました。

## 6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
たばこ対策の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村以外の保険者、医療機関等を対象として、禁煙支援リーフレットのさらなる活用を図ります。</li> <li>・禁煙スタートアップ講習会を開催します。</li> <li>・禁煙支援協力薬局の登録を行います。</li> </ul>
運動の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康ステーションの運営により、「おでかけ健康法」の普及拡大を図ります。</li> <li>・アドバイザー派遣、運営支援により、市町村における健康ステーションの設置を推進します。</li> </ul>
がん検診の推進(戦略3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「がん検診を受けよう！」奈良県民会議を開催します。</li> <li>・全市町村で個別受診勧奨・未受診者再勧奨に取り組めるよう、財政的・技術的支援を実施します。</li> </ul>

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
減塩・野菜摂取(食育)の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会との連携を強化し、子どもの頃からの食育を推進します。</li> <li>・野菜摂取、減塩の必要性を広く県民に周知するため、民間団体、ボランティア等と連携、協働した啓発活動(まほろば元気100菜プロジェクト)を実施します。</li> </ul>